

## 【卒業生(レジェンド)紹介『家族の絆が深まる受験』】

合格校 東洋英和女学院中・東京女学館中・淑徳与野中・星野学園中

東洋英和女学院中は、小学部からあり、東京の中心・六本木にある、キリスト教プロテスタント系の「お嬢様学校」です。

彼女は少し昔の卒業生になりますが、私の中学受験の講師人生に大きな影響を与えた生徒でした。入塾当初から「東洋英和に行きたい。東洋英和に行きたい」と、ことあるごとに言っており、「息抜きに学校のホームページを見る」、もしくは入学していないのに「校歌を熱唱する」ことが趣味、入学後はハンドベル部に入るというプランまで立てていました。しかし、東洋英和もかなりの難関校。四谷大塚の偏差値で言えば60前後のCコースレベルが必要な学校です。徐々にレベルを上げてはくれたものの、合格にはかなり勝算が薄い戦いになりました。東洋英和は2/1、2/3なので、抑えである東京女学館を合間の日程でとり、東洋英和に心置きなく挑戦する、というのが、私が思い描いたプランでした。

ところが、東京女学館も苦戦、2/3の東洋英和は回避させたいと思い、本人とも保護者ともお話ししたのですが、2/3 東洋英和は強行することになりました。都内入試は、後半の日程になればなるほど、難しくなります。彼女のレベル的にも、2/1の東洋英和がダメだった時点で、2/3の東洋英和はほぼ「無理」と思っていました。

そこで奇跡が起きました。2/3 東洋英和合格。終わってみれば、苦戦した東京女学館もとり、都内全勝。本当に奇跡でした。

これだけでも一つの物語になるのですが、肝心なのはここからです。入試が終わった後、

「入試報告会」というイベントを校舎で行い、実際に入試が終わったばかりの受験生に登壇して話してもらおうということ、当時から行っていました。これはなかなか他の塾ではないイベントだと思います。(小学生にしゃべらせるのはリスクーなんでしょうね) 私はこのイベントを毎年、ほとんど打ち合わせなしで受験生たちに話してもらっています。事前の打ち合わせがない方が、生徒の素直な声が聴けるからです。インタビュアーがしっかりしていれば、十分成立するイベントです。(もちろんインタビュアーは私です！)

質疑応答の時間もとり、ある保護者の方から登壇者に質問が投げかけられました。

『受験をしてよかったことは何ですか？』

質疑応答で急にきた問いですから、当然答えは準備していなかったのですが、彼女は即答で

『家族の絆が深まったことです』

と、答えてくれました。この言葉に感動と共感を会場中からいただきました。私もその中の一人です。レベルは足りなかったけれど、家族一丸となって「東洋英和を目指してがんばろう！」そのように勉強してきたからこそ、途中、家族内での喧嘩やいざこざはあっても、結果、絆が深まった。

これこそ、私自身が考える中学受験の理想の形であると思うに至りました。この子が卒業してから 10 年以上たちますが、いまだに私自身のこの考えは変わっていません。

中学受験というと、親が「勉強しなさい！！」子どもとの仲が険悪になる、家族関係が壊れる。こういうイメージを持ちますが、これは「本当の中学受験」ではないのです。

彼女のお陰で、たくさんのご家族に本当の中学受験が伝えてこられたと思います。また、これからも本当の中学受験を伝えていこうと思います。

後日談、ちなみにハンドベル部は大人気で、定員？で入れず、合唱部に入ったそうです。その後、お嬢様学校である東洋英和で「OK 牧場」(昔流行りましたよね)を流行らせるというリーダーシップまで発揮しました。

